

# 令和2年度第2回北秋田市総合戦略検証会議 会議録

日時：令和2年5月26日（火）9時00分～11時30分

場所：市民ふれあいプラザ「コムコム」多目的ホール

## 【出席委員】

安保大樹、伊藤市之丞、大馬重昭、大穂耕一郎、小笠原洋行、奥田実里、木村信人、倉内肇、小塚光子、成田耕介、野宮加代子、濱田純、福原勝紀（五十音順、敬称略）

## 【欠席委員】

池田文明、泉義人、織山友里、小塚雅生、長崎久美子、福森卓（五十音順、敬称略）

## 【説明員】

河田浩文総務部長、小松正彦市民生活部長、石崎賢一健康福祉部長、金澤聡志産業部長、米澤田茂産業部政策監、浅村武則建設部長、小笠原吉明教育次長、長岐篤市消防長、佐藤栄作財政課長

## 【事務局】

三沢聡総合政策課長、鈴木雅昭政策係長、永坂洋男副主幹、佐藤礼介主査、三國麻有子主任、松橋一弥主事

## 【会議の概要】

### 1. 座長挨拶

### 2. 協議事項

#### （1）地方創生推進交付金事業の検証について

座長から評価基準について提案がなされ、検証会議での採点結果が36点以上ならA、27点から35点ならB、23から26点ならC、22点以下ならDという内容とした。

#### 「地域連携DMO秋田犬ツーリズムによる観光振興事業」

大穂委員）実績値の経済的効果が高い結果となっているが、具体的にはどのような効果か。産業部政策監）特産品等の販売業にも効果はあるが、DMOとしては販売業よりも、宿泊業や飲食業に関する経済効果が主なものである。

座長）経済的効果の算出についてはどのようにして算出しているか。

産業部政策監）DMOにおいて算出したものであるが、データ元は確認できていない。後でDMOに確認する。

座長）後で事務局より提出していただくこととする。

小塚委員)「観光振興事業が地域に与える経済的効果」の目標値が4億8千万円であるのに対し、実績値が41億円である。実績値が多いのはいいことであるが、この数字はどのように算出しているか。

安保委員)その41億円という数字は、おそらくフィディア総研が算出したもので、DMO全体の数字であり、北秋田市でどうだったかという数字ではなかったと思う。後でDMOに確認いただき、北秋田市における経済効果額が確認できればよいと思う。

大穂委員)この事業は報道等でも話題となっており、大変効果的な事業であると感じているので、「有効性」の項目については、自己評価よりも高い点数を付けて、全て「5点」としても良いと思う。

■採点結果は42点でA評価とする。

### 「地域産品磨き上げ事業」

野宮委員)「地域資源を活かした新商品の開発件数」など、目標年月に達成できなかった主な理由は何か。

産業部政策監)この事業はマーケティング調査から実施し、それを基に商品開発が行われたものである。商品開発に向けていくつか取り組んでおり、枝豆ペーストやスナック菓子などを手掛けてきたが実際に商品化に結び付いたものは枝豆をつかったスナック菓子の1件になっている。

※後日確認したところ、平成28年度から令和元年度の4ケ年の事業期間中に合計21件(平成28年度1件、平成29年度12件、平成30年度7件、令和元年度1件)の商品化に結び付いている。

濱田座長)「地域資源を活かした新商品の開発件数」の目標値が15件に設定されているが、実績が1件というのは、取り組んだが開発に至らなかったものがたくさんあるという認識でよいか。

産業部政策監)目標値設定については、平成28年度が3件、平成29年度が6件と段階的に増やしていき、事業最終年度である令和元年度には15件にしたいという目標で、実際に商品化に結び付いたものは枝豆をつかったスナック菓子の1件ということである。

※後日確認したところ、平成28年度から令和元年度の4ケ年の事業期間中に合計21件(平成28年度1件、平成29年度12件、平成30年度7件、令和元年度1件)の商品化に結び付いている。

濱田座長)秋田県が枝豆の産出日本一とのことですのですごいことだと思う。しかも、これまでのトップである群馬県の枝豆農家軒数よりもだいぶ少ない1200軒での日本一である。DMOでの枝豆事業には北秋田市の枝豆農家も含まれているのか。

産業部政策監)今回の事業は「朝採れ枝豆」というハードルがあるため、大館市の農家が中心で現時点では残念ながら北秋田市の農家は入っていない。

奥田委員) 枝豆に力を入れて取り組んでいるのもわかるし、鮮度にこだわるというのもわかるが、例えばペットフードなどの加工品の開発に力を入れてはどうか。

大穂委員) 私も同感。鮮度にこだわり首都圏へ出荷する場合、高い輸送費用がかかる。それよりも加工品に力を入れた方がよいと思う。

また、他の特産品にも力をいれたらどうか。例えば山菜。秋田県の山菜は有名であり、最近では畑でも栽培している。もっと他の特産品にも目を向けてはどうか。

■採点結果は34点でB評価とする。

## (2) 各施策の効果検証及びこれまでの総括について

- 事務局(永坂副主幹)人口ビジョン、総合戦略・総合計画目標値達成状況を説明。
- 各部長より所管事業について説明。

濱田座長) 総合戦略と総合計画に区切って進める。総合戦略は基本目標毎に、総合計画は基本理念毎に議論を行う。

最初に、総合戦略から。

「産業振興による仕事づくり」について。

濱田座長) 次に、総合戦略の「移住・定住対策」について。

大穂委員) 鷹巣地区は不動産屋が機能しているが阿仁地区では不動産屋がないためマッチングが難しいなど、移住希望者等に対し住居を提供する体制が整っておらず綱渡りの状態である。現在、コロナ禍の影響で移住相談等がなかなかできない状況であるが、そういう状況である今のうちに、対策を検討していけたらよいと思う。

また、近い将来、大阿仁小学校が学校再編統合により空校舎になる予定なので、事業所や防災拠点等での活用を検討し、合わせて居住場所の確保も進めてはどうか。

濱田座長) 次に、「少子化対策」について。

小塚委員) 根本的な少子化対策はまだまだ出来ていないと感じる。本年度、保育園の定員割れが起きている。安心して子育てできる民間事業所のサポート体制が必要である。それが少子化対策につながると思う。

秋田県では、幼保推進課という部署があり、教育分野と福祉子育て分野が連携する形である。北秋田市もこういう取組をしていけばいいのではないか。

木村委員) 市では不妊治療費助成があり助かっている夫婦がたくさんいるようである。し

かし、市内では不妊治療を受けることができる機関が充実していないため、秋田市や弘前市、仙台市に行って受けているという話を聞いたこともあるので、北秋田市でも不妊治療を十分に受けることができればありがたいと思う。

また、不妊治療となると女性へのサポートは多くあると思うが、不妊治療に関して男性が相談できるところはあまりないため、男性へのサポートにも目を向けてほしい。女性だけでなく男性についても相談できる体制があれば助かる市民も多いと思う。

濱田座長) 次に、「新たな地域社会の形成」について。

福原委員) 資料4のNo.55・空き家の調査について。所有者等が不明な空き家もあるか。

総務部長) 所有者や連絡先が不明なケースはほとんどない。

大穂委員) 内陸線の利用者が増えたのは良かったが、新型コロナウイルスの影響で3月以降はほぼ壊滅状態だと思う。内陸線に限らずバスやタクシーについても全国的に厳しい状況である。行政機関から、内陸線・鉄道・バス事業者への支援策を出してほしい。

濱田座長) ここからは総合計画について。

「健康で仕事にはげむ活力あるまちづくり」について。

福原委員) 資料4のNo.67・市内の医療体制について。秋田大学医学部の地域枠が拡大となった。これにより、この医療圏でも医師が増えることを期待している。

小塚委員) 障害福祉について。秋田県が昨年度、障害者差別解消推進条例を策定した。

また、人口は減少してきているが、障害者数は減少しているとは感じない。むしろ増えていると思っているので、障害者が生活しやすい環境作りを進めてほしい。

濱田座長) 次に、「お互いが尊敬し支えあう明るいまちづくり」について。

濱田座長) 次に、「命のたいせつさを学び文化をはぐくむ豊かなまちづくり」。

奥田委員) 市民文化祭について。市内の文化を共有して、発表等を行うのは大切なことだと思うし、市民レベルの高さだと思う。

また、地域の文化を継承・存続させるため、高校生を文化祭に巻き込んで頂きたい。高校生を引き込んでまちを盛り上げてほしい。高校生が出演すると、その家族も観にくる。

さらに、高校生は卒業するとこのまちを出て行ってしまう方が多いというのが実状である。この高校3年間で「北秋田市に残りたい」または「いつかは北秋田市に戻ってきたい」という地域への愛着を育まなければならないと思う。

濱田座長) 次に、「自然を愛し環境をととのえる美しいまちづくり」について。

福原委員) 回収されないゴミについて。北秋田市の分別方法がわかりづらいと思う。特に、転入者は理解できていないようである。そこで3つ提案したい。

1. ゴミの出し方一覧表に、注意点を赤字などで目立つようにする。
2. 「分別早見表」はネットで閲覧できるが、閲覧できない人にはチラシを配布する。
3. 特にまちがしやすい事例ベスト10などをまとめて周知する。

濱田座長) 次に、「みんなで力をあわせる住みよいまちづくり」について。

奥田委員) 資料2、資料4のNo.129・市役所職員の窓口対応等について。資料2に「都度、改善するよう対応している」とあるが、指摘があったことは実際に改善されているのか。

総務部長) 個々の職員に対する指摘については職員に非があるのか等状況を勘案し指導を行うが、改善されない場合は該当職員の懲戒処分に及ぶ場合もある。

奥田委員) 個人的には、税金は行政に対する投資と考えている。行政はサービス業であるということを職員に再認識していただきたい。

小塚委員) 窓口対応について。各窓口障害者対応に関して内閣府が発行する「合理的配慮を知っていますか」という冊子は配布されているか。

市民生活部長) そのような冊子は窓口にはない。しかし、バリアフリーに関しては場面場面で、対応について職員に話をしている。

濱田座長) 最後に、全体を通して何か意見等ある方。

濱田座長) それでは、頂いた意見を私と事務局でまとめて、皆さんに報告させていただく。

閉会